

ベイタウンニュースに中学生記者が登場

打瀬中学校のAT講座に『ベイタウンニュースを作ろう』という講座が出来ました。ここに載っている記事はその講座を希望し、集まってきた私たち中学生が書いた記事です。“何を載せるか”から“どういう形で載せるか”まで色々考え、原稿を書き、この記事をも自分たちで作りました。初めはベイタウンニュース本紙の1ページだけを私たち中学生が担当する事になっていたのですが、途中から2ページ頂けることになりました！今月号は打瀬中学校の生徒が地域の方々に中学校を紹介する特集号です。これを読めば打瀬中と先生達の知られざる秘密が分かります。次回は12月号にも私たちが記事を書く予定です。こう御期待！！

ベイタウンニュース中学生記者：写真前列左から、宮城島康平、五十嵐直人、法月恒太郎、小野浩司（以上1年生）後列左から、太田佳織、富川真希、村田かな（以上2年生）敬称略



打 中探検隊

入学して3か月、1年生男子
4人が打瀬中学校で発見した
ものは・・・



はしごの上はナーニ？

ぼく達ベイタウンニュース担当記者は武道場に行く階段を登った所になぞのはしごを見つけました。はしごの上は何かでふさがっていて上はわからない。けどそのふさいでいる物がとれそうなので行けるかしれません。

みなさん、打瀬中学校にきた時はぜひ見てってください。
【小野】

電気ウィーン



皆さん、打瀬中学校の天井はとても高い・・・でも、もし電球がきれたら？自分の手じゃとどかないし、はしごを使ってとどかない・・・だから、あきらめましょう！なんていってもどうしようもないので教えます。実は打瀬中学校にはすばらしい、イケてる装置があるのです。なんと、どこにあるかはわからないけど、あるボタンを押すと電気が天井から降りてくるんです！嘘だと思う人は打瀬中学校の先生に聞いてみてください。
【法月】



編集会議風景

小出先生は、ネズミ狩り好き？

実はこの話、実話なんです（笑）。国語担当の小出先生は、机の引き出しをあけたらネズミが飛び出してきたので、無我夢中でスリッパをもち無意識のうちに「ドリーパー！」とねずみをたたいてしまいました。我に返りネズミ恐怖症になってしまい、ねずみ取りをいつの間にか手にしていました。しかしそれくらい、ネズミは二度と姿をあらわさなかったそうです。

【五十嵐】



ナゾのピラミッドパワー

ある日、僕は打瀬中学校2Fの会議室で勉強しました。するとその次の数学のテストでは70点だったのが、85点にあがりました。さて、なぜでしょう。

1. ピラミットの形をした会議室がパワーをくれたから。2. 僕の頭がよくなったから。3. カンニングをしたから。

正解は、2ではなくて3でもなくて1です。

【宮城島】

打瀬中学校の GTM と GTY

GT とはグレート・ティーチャーの略。打瀬中学校では生徒が仲間内で先生を呼ぶとき、尊敬を込めて(?) この呼び方を使うそうだ。GTM なら Great Teacher Mitsuhashi (グレート・ティーチャー三橋) という具合だ。これは 2 年生女性記者 3 人が伝える打瀬中学校紹介記事の教師編。



三 橋先生は 2 年 A 組の担任。テニス部の顧問で教科では地理です。クラスでは、とても楽しい、時に厳しい先生です。私たちは、先生の迫力にオロオロしてしまうときもありますが(笑)、「怒るときは厳しく」は少しズッコケ気味の 2 年 A 組にはピッタリです。

そんな先生が一番輝く時間は「給食の時間」。生徒と一緒に駆け回り、ジャンケンに励む姿はこの学校一でしょう!! いつも私たちに様々な姿を見せてくれる「すてき」な先生です。

テニス部では学級以上に厳しい様子・・・、鋭い目がいつも以上に光ります。そんな厳しい練習のおかげで試合の成績は「県大会ベスト 8」とすばらしい成績!! 打瀬中学校で一番厳しいと噂される部活ですが、同時に一番成績のいい部活でもあります。

いつも厳しい、楽しい先生ですが生徒に感動をくれる場面もあります。それは、転校生の「お別れ会」のラストを飾る三橋先生率いる学級応援団!! 先生の声援の後を、生徒の応援が追いかけてきます。別れの寂しさを感じさせる場面ですが、応援団のエールは転校生の不安を吹っ飛ばします。

生徒にいつも熱く語りかけ、私たちのどんな問題にも厳しく対応してくれる三橋先生。2 年 A 組にも、テニス部にも、そして打瀬中にも欠かせない先生なのです。

【村田】



山 T こと山田先生は昔話の主人公だという伝説がある。むかーしむかし、山 T は自然教室ハイキングに行った。このハイキングは生徒達がそれぞれのグループで目的地まで歩いてく。だから山 T や他の先生は生徒が無事全員通ったか確認するために、いろんな場所に散ばって待機していたらしい。すると先生達に「山田先生が崖から落ちたぁ!」と連絡が入ったのだ。びっくりした先生達が駆けつけると意外にも山 T はケロッとしていた。落ちたのは山 T ではなく山 T のおにぎりだったのだ。山 T がおにぎりを食べようとしたら虫が出てきて、突然の出来事にびっくり! おにぎりを崖に転がしてしまったという訳だ。現在他の昔話も捜査中! 次は白雪姫だったりして…。

山 T にはもう一つ「GTY」という愛称がある。でも「グレートティーチャー」というわけではない。「ガーデニングティーチャー山田」なのだ。環境緑化委員会の顧問でもある山田先生は草花をととても大切にしている。自分が泥だらけになっても、トゲで傷がいっぱいになっても、雨が降っていても、一番に草花の状態を考えているからスゴイ。暇そうな生徒を見つけては、有無を言わず手伝わせることもあるけれど、そんなところも全部含めてもやっぱり山 T はすごい先生だなあと思う。【富川】

山田先生は、英語の授業では、ゲームをよくやってく

れる。外国人の ALT (Assistant Language Teacher) の先生も混ぜてやるので、大盛り上がり。ひとりでやるものからグループでやるものまで幅広くやってくれる。ELT の先生が英語でゲームの説明をして、山田先生がそれを通訳してくれるのでとりあえず納得して始める、ゲームは英語だけどやっているうちに分かってくるので大丈夫! みんな楽しくやっていてあっという間に授業が終わってしまう。しかし、これらの楽しいゲームを山田先生がどこから手に入れてくるかは謎。

【太田】



打瀬第二小学校（仮称）開校をめぐって

打瀬第二小学校はいよいよその輪郭を見せはじめましたが、3回目の説明会が7月1日（土）に開催されました。

当日は打瀬小アリーナが保護者と地域住民で満杯になり、関心の高さをうかがわせました。市からも谷内教育総務部長をはじめ13人が出席、「運営面・内容等、住民といっしょに作っていききたい」とのあいさつがありました。さっそく、市側から前回要望のあったメッセ大通りの安全性について、手押しの信号機を14・16・20番街の交差点に設けることで解決したいとの説明がありました。

しかし、この問題についてはメッセ大通りの交通量が今後増大することを心配する保護者から「信号機の自動化」「横断歩道橋」「地下通路」等を要望する意見が相次ぎ、市からの「横断歩道の設置は街のデザインに関わることは企業庁の管轄なので、住民から企業庁に要望を出してほしい」との回答には、「街のデザインより子どもの命を大切にしてほしい」と住民から声があがりました。

また、「学童保育は学校施設内に考えてほしい」との働く母親の要望に対して、「次の新設校の際に検討していきたい。コミュニティコアにも子どもルームができるし、現在の11番街の子どもルームもまだ定員に余裕がある」との説明。これには子供ルームの関係者から「狭いなかでやっている現状を知らないでそういうことを言ってほしくない」との切実な声が聞かれました。

内容面では「新しい学校の進め方を事前に準備してほしい」「フレンド活動は引き継がれるのか」「教育の内容面の担当者に打瀬の会に参加してほしい」など。このほか「開校記念のイベントを開いて住民に見てもらっては」との提案も（これは実現しそうです）。

市が住民向けの説明会を3回も行うのは異例とのこと。校名のアンケート調査なども含め「住民」を意識した姿勢は歓迎できるものだと思います。いっぽうで、前回の要望であった企業庁同席は実現しておらず、住民側も意見は言ったもののそれが今後どう生かされていくのか納得がいけないという幕切れでした（要望の結果は知らせると市側は言っていますが）。正直、メッセ大通りを毎日渡って登校する子どもたちの安全面の配慮については、保護者でなくても心配が残りました。

なお、この説明会の議事録は住民との約束通り、子どもを通して19日に保護者に配られています。また、ペイタウンネット上でも紹介される予定です。

【取材：佐藤】

コミュニティ・コアいよいよ大詰め

コミュニティ・コアの設計は最終段階を迎えています。7月1日（土）に行われたコア研主催の「コアの設計図を見ながら あれこれ注文する会」での話し合いの中から主なものを紹介します。

■図書館スペース（750平方メートル）は狭いのでは

貸し出しを重視した分館という位置づけになっている。駐車場スペースの上を使えないか検討したが、管理上、外に出て本を読むことはできない。それでも何とか管理する千葉市に掛け合っただけで公民館側のルーフテラスではOKという許可をもらっている。他の分館より200平方メートル広くなっている。

■一般の子どもルームの使用について

子どもルームは、学童保育としてお金を払ったお子さんが使う場所で、原則的には入れない。ただし、子どもルームを学童保育では使わない午前中や日曜日に、他の子どもたちも使えるように市に働きかけているところだ。

■生音を生かしたホールと多目的ホールは両立するのか



投書から：打瀬第二小学校（仮称）のネーミングについて

私は「打瀬小学校」の校歌にちょっとしたこだわりを持っています。打瀬の子どもたちに“夢”と“希望”と“自由”を感じさせてくれるとても素晴らしい校歌です。この素晴らしい校歌をどちらの小学校でも歌っていれば…が原点となって、「打瀬小学校 West」「打瀬小学校 East」という案をネット上に掲載しました。ネット上で意見をくれたNさんの街もこの街同様小学校が二つに分かれたそうですが、A校が1・3・5年生、B校が2・4・6年生と分かれ、1年毎に二つの小学校を行き来していたそうです。

もちろん、運動会も文化祭も同時開催。「二つの学校を行き来するのは子どもなりに大変でしたが、とても大きくて楽しい小学校でした」とNさん。実は私自身も二つの小学校に分かれた経験がありますが、学校名が違ったため、会う機会もなくなり心まで別れてしまいました。相手の小学校の校庭にすら入りづらく、ついには敵対心まで起きたりして…。

Nさんの場合は学校長は一人だったそうですが、私は学校長が二人いても良いと思っています。それよりも二つの学校をリンク

させることにより、子どもたちの心がお互いにリンクすることのほがとても大切なことのように思うのです。「打瀬小」が1～5組で「二小」が6～10組でも良いとは思いませんか？物理的には学校は別々でも、二つの学校が“同じ校歌”を歌いウタスポやフレンドフェスタも同時開催、教育にしてもネットワークを有効利用し、お互いの教室を行き来すれば良いのだと思います。友達だって2倍になるのです（名前を覚えるのがちょっと大変かもしれませんが）。

両校の先生方は大変かもしれませんが、協力しやすい環境になるでしょうし、先生方の心の充実がソフト面の充実へと繋がっていくのではと思います。

「物理的に分かれても、心まで別れない環境」

これこそが、この街が本当に求めている教育の場なのではないでしょうか。

【公園東の街：清水将雄】

打瀬第二小学校の校名アンケートについて

千葉市教育委員会では、地域住民や保護者から広く意見や提案を募る目的で、「校名のアンケート調査」を行っています。あくまでも校名選定の参考にとのことですが、いいチャンスですので皆さんの意見をお寄せください。

■調査用紙：打瀬小学校事務室にあります。

■提出：在校生の父兄は9月4日の始業式まで。一般の方は9月1日までに打瀬小学校の事務室に設置予定の投書箱に投函してください。

集会室の講堂（ホール）は、生音を生かした演奏ホールを床を上下させてより多目的に使うというもの。ここからの広さなら人の声が聞き取れないこともない。ホールがあるのが特徴なので、これからの実施設計の段階（7～11月）で力を入れていきたい。

3年にわたりコア研究会がねばり強く関わってきた結果、全体で1950平方メートル当初組んだ面積を、現状では1988平方メートルまで増やすなど企業庁にも努力の跡が見られます。この説明会の後も「ホール音響」「ピアノ選定」など個別に検討会を持ち、具体的な提案を展開中。また完成後は、住民が参加して運営にあたるコアの運営協議会を作っていく計画も進んでいます。

◆設計図は2番街のペイタウン掲示板に貼ってあります。

街づくりに住民の声を！

「街づくり研究会（仮称）」設立へ

街開きから5年。幕張ベイタウンにはざっと1万人の人が住むようになり、「街づくり」をこれからどう進めていくかを考えるとき、これまでのような机上の議論だけではどうも済まなくなってきました。「ベイタウンの街づくりは第二ステージを迎えている」と言われるゆえんです。

ここにきて、ベイタウンではいま「街づくり研究会（仮称）」を立ち上げようとの機運が高まっています。

企業庁の計画見直しを評した投稿がきっかけ

直接のきっかけは、千葉県企業庁主催の「幕張新都心住宅地（ベイタウン）事業の変更にかかわる説明会」に出席した大竹亮さん（13番街在住）からの投稿です（本紙7月1日発行号参照）。ここで大竹さんは、今回の計画見直しには①独自のコンセプトに対する評価と展望②実際に生活している居住者の声を反映させる姿勢——の2点が欠けていると指摘。見直しに対する疑問や不満を居住者側で多数の意向としてまとめる必要があるのでは、と呼びかけました。

投稿に応じるかたちで下川正晴さん（5番街在住、コミュニティコア研究会代表）から出たのが、「街づくり研究会（仮称）」設立の提案です。下川さんの提案は、長期的な視点に立って街づくりを考え、ベイタウンの街づくりのシンクタンクの役割を担う研究会を立ち上げよう、というものです。

下川さんは研究会の設立を提案した理由をこう説明します。

「ベイタウンを5歳とすれば、もうそろそろ“家族会議”に出てもいいのではないかと。ただ、そういう場に参加しようとするからには、知恵と経験と見通しをもっておきたい」。住民の声を街づくりに反映させる仕組みのないことを問題視する一方で、反映させようと物申す以上は、住民側にも行き当たりばったりではない姿勢が求められる、と指摘します。

「住み続けたくなる街にしたい」との思いは一緒

大竹さんは言います。「なにか不満に思っても、どうすればいいのかわからない。だからこそ、手応えや成果を目に見えるかたちで示す必要がある。ただしそれには、ひとり一人がバラバラに意見を言っているのはダメ」。たしかに、日ごろ暮らしていてもなにか問題を感じていても、ひとり一人ではなかなか解決できません。どうすればいいのかわからないまま過ごしている人も少なくはないのでしょうか。ベイタウンのよさを保ち続け、さらに、だれもが住み続けたくなる街にしていくには、「私憤」を「公憤」に転化させる場が欠かせません。そうした意味で、研究会の立ち上げは意義深いものです。

第二ステージを迎えたベイタウンはもはや、企業庁や、マンションを供給する住宅事業者、計画づくりに携わるプランナーだけのものではありません。そこに暮らしの基盤をもつわたしたちも、これまで街づくりを進めてきた専門家と協調して街の将来を描く作業に参画できる立場にあるはず。たとえ具体化の局面では利害が対立するかのようであっても、それをもって互いに敵対意識をもつようになるのは不幸なことでしょう。「住み続けたくなる街にしたい」との思いは、街づくりに携わるだれもが一緒なのですから。

【茂木】

カミネッコンが街路樹を救う

ベイタウンの街路樹はどれも潮風にやられて瀕死の状態です。これは潮風が強い（強すぎる）という理由の他に、潮風が強いベイタウンの生態系に見合った木を植えていないということと、苗木を植えずに、造成当初から成木を街路樹として（街並みを立派に見せるために）使っていることが大きな原因として考えられます。

そこでカミネッコンの登場です。カミネッコンとは、簡単に言えばボール紙で作った植木鉢に木の苗や挿し木をして地

面に置き、そのまま育てて成木にしようという一種のバイオブロック工法。植木鉢は紙でできているので木が育つ過程で崩れて土になり、そのあいだに木の根は十分に育ち、地面にしっかりと根を張ります。苗木から育てるので木の適応性が強く、成木を持ってくるよりも育つ可能性ははるかに高くなります。

これを子供たちが参加して行うことにすれば、紙でできた植木鉢なので、子供たちが思い思いに絵を描いて、記念植樹（？）という楽しいことも可能です。また、ベイタウンに適した植生を調べるといことは、古くからの幕張・稲毛地区の植生調査などの作業を通じて、この地区の歴史に触れることや、旧市街の子供たちとの交流ということもできます。

エコパークをつくる会では「カミネッコン」を使ってベイタウンの緑を救うことに挑戦しようとしています。ベイタウンの街路樹がことごとく枯れることに危機感をもった企業庁も、住民の実験的な試みならということで土地を貸してくれました。場所は18番街横の空き地の一部。ここは将来的にも緑地として残す部分なので実験にはもってこい。また、住民が積極的に行う街作りの姿勢に共鳴

して、ディベロッパーからも資金協力の申し出が来ています。

とはいえ相手は植物、チャンスは年に何度もあるわけではありません。エコパークを作る会ではこの夏休みから子供たちと、幕張の樹木の調査やカミネッコン作りの工作にかかります。

第二小学校（仮称）横のエコパーク計画も、いよいよこの夏休みに具体的な設計図づくりにかかります。エコパークをつくる会ではもっともっと沢山の方の力を必要としています。

カミネッコンをつくろう、夏休み工作教室

日時：8月25日、午前9:30～11:30

場所：18番街集会所

対称：年齢制限はありませんが、4年生より低学年は保護者の方も一緒に

主宰、問い合わせ先：エコパークをつくる会 小川（211-7736）、松村（211-6853）



Who's Who 第7回

千葉大学大学院 稲毛在住
曾和具之さん

今月は千葉大の大学院生で博士論文の題材としてベイタウンを研究している曾和具之（そわともゆき）さんに取材しました。曾和さんは神戸生まれの神戸育ちです。高校を卒業後、高知大学に進学し、現在は千葉大学大学院自然科学研究科地域多様性化学専攻で博士論文を執筆中です。

ベイタウンとの関わりは1996年に大学の授業で景観調査に訪れたことが最初で、幕張ベイタウンが当初の街づくり計画と人が実際に住むようになった後ではどんな違いが出てきているのかを調べる事が目的でした。以後、「幕張ベイタウン」という新しい街と「幕張町」という古い町との関わりについて研究しています。

ベイタウンに関していま一番興味があることは？との質問には、これからの街の発展、特にコミュニティとしての発展に興味があります。また、幕張の浜が埋め立てられる前からの町である「幕張町」と「ベイタウン」との関係も研究している関係上、同じ「幕張」という歴史を持つ市民がお互いを知り、共通の文化を持つことができれば、これほど素晴らしいことはないのではないかと思います。ところが、現実には「幕張町」と「ベイタウン」は行政区域でも「花見川区」と「美浜区」という違いがありますし、357号線と高速の高架部分で町が分断され、両方の住民に一体感はほとんどないので両方の住民が共通認識を持つのは難しいと感じています。

ご記憶の方もあると思いますが、曾和さんは以前博士論文の参考の為に、ベイタウンと幕張旧市街に在住の方々を対象に、両方に共通した内容のアンケートを実施しています。その結果に関して面白い話を聞く事ができました。

アンケートはかなりの回答率を得る事ができました。両者のアンケートを実施することによって、「幕張」という名のもとでの文化意識を調査することが、最大の目的でしたが、その結果ベイタウン在住の方々のまちづくりに対する熱意が沸々と感じとれる

結果が得られたと思います。一方、幕張旧市街からの反応は興味深く、60～70才代の方々は町に愛着を持ち、幕張の浜の埋め立てから見続けて来たために、ベイタウンも「幕張」だというテリトリ意識とともに旧幕張町の発展の為に、新都心との連携は不可欠だという意識を持っていますが、面白いことに若い30～40才代の回答からは幕張町の未来に否定的で、新都心との連携にもほとんど関心を示さないという結果が表れ意外感を持ちました。

最後にアンケート結果から何を感じたか聞いてみました。

ベイタウン在住の方々によるアンケートの結果から、私は、ゴーギャンの「我々はどこからきたのか。我々はいま、どこにいるのか。我々はどこに行こうとしているのか」という言葉を彷彿させられました。まちづくりに大切なことは、まさに、「我々の街はどこからきたのか。我々の街は、いま、どういう状況にあるのか。そして、我々の街はこれから、どうなっていくのか」ということを真剣に考えることではないかと思います。ベイタウンがこれからの子孫に延々と語り継がれる街になること、そのために、今なにをすべきかを考えること、その大切さを考えながら、私自身の研究について考えています。

恒例の、「ベイタウンの中で一番好きな場所は？」という質問には、「メッセ大通り沿いと中学校周りの花壇」という返事が返ってきました。理由は「人間味にあふれ、企画・計画的ではないところが好きです。」という答に曾和さんの素朴で実直な面を感じました。



番街紹介第6回 パティオス13番街

プロムナードを南へ進んで11番街とコミュニティコア予定地の間を過ぎると、道の両側に12番街と13番街が並んでいます。2つの街区は色も形も違いますが、両棟とも交差点の角の部分が丸く引込んで辻広場のようになっている点がお揃いです。

向かって右側がパティオス13番街です。角には3階まで吹き抜けの広いピロティと大きな階段や長いスロープがあって、雨の日でも子供たちの遊び場になっています。大階段を上ると開放された中庭に出ますが、少々変わった迷路のような中庭です（写真）。ここを通り抜けると近道のようなものもあり、遠回りのようなものもあります。通路には不思議な人形のようなものが並んで、通る人を眺めています。

中庭がこういう形なのは、暗く閉鎖的になりがちな駐車場や駐輪場を明るく安全にするために、中庭や外壁にたくさん穴をあけたからでしょうか。駐車場にふんだんに陽光を取り入れ、見通しをよくしているのが、防犯上も効果がありそうです。中庭の他に小さな屋上広場が4カ所あり、どれも見晴らしのよいテラスです。集会室はプロムナードに面し、1階が三角形のホール、2階が吹き抜けのギャラリー、3階に和室が2間あります。

13番街には自治会はありませんが、昨年の綱引き大会参加（初出場準優勝）をはじめ、夏の中庭ビアパーティ、クリスマスの飾り付け、子供会（フレンド）の催し、資源回収への協力、そして問題発生時の集会による解

（次ページにつづく）



必要に応じ有志が発意して全居住者に呼びかけつつ活動しています。

さて、13番街には、いくつか不思議な場所があります。一つは「行き止まりの階段」です。私の知る限り2か所がありますが、かくれんぼ以外に使いようがありません（でも、外の道路から見えるのですぐに見つかってしまいますが）。

もう一つは「謎の店舗」です。プロムナード終点の信号機のある交差点に向かって、12番街とミラリオはガラスブロックの円筒形を突き出していますが、これに呼応して、13番街1階には丸い店舗スペースがあります。でもいつも無人で、開いている気配がないのですが、窓の中にクリスマスツリーのようなものが見え、よく見ると

それは機械の部品！で出来ているのです。謎が解けたのはクリスマスの夜でした。お店が開いていて、フラスコを覗くと色々なものが映るオブジェやコーヒーが飲めるコーナーもあり、隠れ家のように心安らぐ場所でした。実はアロマセラピーのお店で開店準備中とのこと、早く本格的に開いてほしいですね。

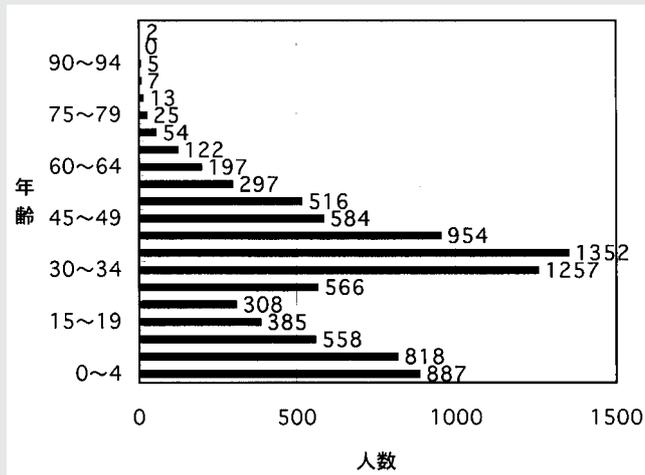
知っていますか？

私たちの街ベイトウンの現状

先月号のベイトウンニュースP2『フォーラム第二部「分科会」報告』で、6月4日に開催されたベイトウンフォーラム第二部の報告を行いました。誌面の都合により、ほんのさわりしかお伝えできませんでしたが、ベストライフ研究会（16番街青木さん、8番街須田さん）主催の第二分科会『タウンライフから私たちの街を語ろう』では、豊富なデータ調べを元に、私たちの街ベイトウンの現状を赤裸々に紹介してくれていました。本稿では、先月号で伝えきれなかった、「タウンシステム」の面から見たベイトウンの現状・問題点を、分科会資料を元にご紹介します。【板東】

歪んだ人口構成下のグラフを見て下さい。ベイトウン（打瀬地区）の5歳刻みの人口構成です。グラフを見ると一目でわかるように、ベイトウンには、(1)乳幼児が非常に多い。それにも関わらず、育児施設（保育園・幼稚園）がひとつもなく、沢山の乳幼児があふれている。(2)15～24歳の高校生・大学生世代が少ない、(3)30～39歳の人口が断然多い、という特徴があります。結果として、平均年齢は31.3歳ということになっています。

意外と多い高齢世代60歳以上の方を「高齢世代」と分類すると、現時点で429人、前年比で120人増えています。特に、人口比で言うと、比較的新しい街区である公園西の街、東の街、セントラルパークで高目の比率になっています。6月には、100名近い会員を擁する『ベイトウンシニアクラブ』が



ベイトウンの人口構成（平成12年4月末現在）

	美浜区	稲毛区	花見川区	中央区	若葉区	緑区
人口(人)	135,319	147,087	178,634	169,396	150,905	100,694
施設数	2	6	3	7	23	8
1施設当たり人口	67,660	24,515	59,545	24,199	6,561	12,587
サービス度	6	4	5	3	1	2

千葉市老人保険福祉施設比較表（平成12年4月末現在）

活動を開始しました。

お粗末な公共施設先月号でも触れましたが、ベイトウン内内には福祉施設、生活便利施設が絶対的に不足しています。2年後にはコミュニティコアができるとは言え、現時点では公民館も郵便局もなく、銀行が1行あるのみです。また、福祉施設に至っては、ひとつもありません。ベイトウン売り出しの広告の『ベイトウンは教育施設も公共機関も快適な生活に必要なものは全てそろっている、21世紀を先取りした沿道型住宅です。』というセリフがむなしく響きます。

美浜区の老人施設の現状上の表は、千葉市6区の老人保険福祉施設の比較表です。美浜区のサービス度（人口当たりの施設数）は、千葉市で最低、1位の若葉区と比べると10分の1です（注：若葉区とて、施設数は多いが、過疎地の交通の不便な所が多いため十分とはいえません）。美浜区の施設数が2となっていますが、そのうちのひとつは今年4月に開設した「美浜苑」という特養施設で、約50名が入所されましたが、入所できたのは要介護認定度が低い限られた人だったという話です。もうひとつは「いきいきプラザ」というデイケア施設です。千葉市全体では、民間施設を含めての収容可能人数は3,869人であり、千葉市の65歳以上の人口102,200人に対して全く不十分で、その中でも美浜区は特に寒い現状と言えるでしょう。

ベイトウン（21世紀のライフスタイルを志向した街）の暮らしは如何でしょうか…何が覚えて来ましたか…これからどう在りたいですか…。『スクラップアンドビルド』の戦後の社会の進み方に対する反省のもとに、人と社会の調和を目指して、長い時間をかけて街を完成していく。そのために計画段階から全体のコンセプトを重視した、新しい街づくりへの大胆な試み…。しかし、日本で初めての『住まいで街をつくる』という挑戦は、バブル景気の破綻と共に夢のごとく消え去り、一夜の夢物語になっていないでしょうか。そこに住みついた私達は、ヨーロッパ調の美しい沿道型住宅に住んでいると浮かれています。県企業庁の現在の姿勢に注目してみましょう。街づくりの基本コンセプトは…何処に行ったのでしょうか、住宅を建てイメージを膨らませ売りさばく今までのベッドタウン方式に近づいてはいませんか？私達は冷静に現実を見つめ、終生暮らしていける方法を手にしなければなりません。人が生まれ、年を重ねて生涯を終えるまでの生活には、色々なことがあり、沢山のものが大切です。立ち止まって検証し、評価と提言を試み、人に優しい街、真に美しい街づくりの実現に向けて考えていきましょう。

ベイトウンベストライフ研究会青木・須田

☆先月も街のあちこちで、暑さに負けず、いろいろなイベントが行なわれました。

●7/20(日)熱気のフリーマーケット in 東の街(中庭)

—真夏日の外でのイベントでしたが、他の番街の人たちもたくさん参加されて、大盛況のフリーマーケットでした。かき氷が大人気でした。

●7/21(金)プロムナード、商店街の夏祭り

—櫓太鼓や盆踊りを見ながら一巡り。住民数が増えたことと、浴衣を着た子たちが多かったことを実感しました。

●7/22(土)東の街の“設計者と語る夕べ”(中庭)

—東の街の設計者7人を招き「各棟のデザイン意図」「中庭のデザインコンセプト」の話や、住民(参加者36人)との意見交換が行なわれました。



小川(#18-208 TEL:211-7736)、那須(#9-402 TEL:211-0886)

夏祭り情報

8/19 2番街
8/26 5、6、8、12番街
9/2 GPE
9/9 4番街

恒例 幕張新都心トライアスロン大会

日時;2000年10月19日

今年もボランティアを募集しています。詳しくは各番街掲示のポスターを

共育ワークショップのお知らせ

子どもたちは「家庭」と「学校」と「地域」の中、人と人との関わりを通して社会性を身につけ、人となりになっていきます。子どもたちと同じように、われわれ地域の大人も学んでいきませんか?

日時: 8月20日 13時30分~16時30分

場所: パティオス10番街集会所

内容: 1.地域教育のあり方についてお話ししよう
2.新しい学び方を体験しよう

参加人数: 定員(25人)先着順

主宰: 打瀬小学校、地域交流特別クラブ有志 他

申し込み、問い合わせ先

山崎(#11-434 TEL:211-7573)、松村(#10-612 TEL:211-6853)

「かるがも館」閉鎖のお知らせ

以前よりお知らせしておりましたが、公団のコミュニティ施設「かるがも館」は、今年8月末をもって正式に閉鎖するはこびとなりました。これまで地域の皆様のサークル活動支援、公団住宅の募集案内等で皆様に親しまれてまいりましたが、コミュニティ・コア建設準備のため、その役目を終えることとなります。敷地については、10月中を目安として更地とし、解体後の建物は公団の他の事業地区に移転する計画で検討中ですが、詳しくは未定です。8月末までの間、定休日の水曜日以外は、毎日開館することになっておりますので、お気軽に足をお運びください。地域の皆様方には、今までたくさんのご利用をいただき、まことにありがとうございました。



いました。



都市公団

■2回連続でフォーラムの第二分科会についてお伝えしました。参加者どうしによる討議の結論は、「これからは、行政やデベロッパに用意してもらうのではなく、実際に住んでいる人間が、何が足りない、ここをこうして欲しいということを声を出し続けなければダメ。」ということだったと思います。街づくり第二章は、これから皆の手で記されていくこととなります。

編集: #1-210 板東司(T&F:211-0289/tbando@dp.u-netsurf.ne.jp)

■打瀬中のAT講座に、ベイトウンニュース1~38号のセットを持って行きました。記事作りの参考に…と思ったのですが、中学生記者たちは「あっ、小学校の時の遠足が載ってる!」「○○の写真だ。」と大喜び!…のように、今月の“先生紹介”の記事は、高校生や大学生になっている教え子たちも喜んで読むのでは!子どもは街の中で育ちます。ニュース紙面の中に“共通の思い出”を持てる事は、この街の魅力の一つではないでしょうか。

記者:# 公園東 浜田貴代子(atmark@pop01.odn.ne.jp)

■ニュースの取材で「ゾーニングの見直し」「コミュニティ・コア」「第二小学校」と立て続けに説明会に出席しましたが、いずれも住民の意見は消化不良のまま重い気持ちで会場を後にするばかりでした。どうすれば住民の意見をまちづくりに生かすことができるのか…とっていた矢先に13番街の大竹亮さんの呼びかけで「仮称・まちづくり研究会」が発足に向けて動き始めました。「要望」を言い放しにしないで、住民も(私自身も)勉強しながら行政に働きかけていける実力をつけるきっかけになったらいいなと今から楽しみです。

タウンスケッチ記者:#3-310 佐藤則子(T&F211-0090)

■夏祭りの季節になりました。各街区ごとに思考を凝らしたイベントが行われていますが、主催者側(ボランティア住民)とお客さん(一般住民)にわかれてやいませんか?だいぶ前の「あなた作る人、わたし食べる人」というテレビCMを思い出させます。住み良いコミュニティのためにも、お客さんを減らす工夫が必要だと考えました。

企画:#3-220 金一剛(T:211-0388/ikkim@xa2.so-net.ne.jp)

■これからの街づくりを考えていこうとするとときかかせないのが「情報」です。企業庁や千葉市がなにを考えているのか、街のどこでどんな問題が起きているのか、などなど、迅速で正確な情報が求められます。行政からの情報公開が悲しいかな現実には十分でない以上、必要な情報はみずから取ってくるほかありません。ベイトウンニュースとしての取材の必要性を再認識しています。

記者:#7-301 茂木俊輔(T&F211-1066/m38032@pp.ij4u.or.jp)

■今月のメイン記事はなんと言っても中学生記者の登場(もちろん独断ですが)。何度かAT講座と一緒に記事をつくり、あらためて“きらり輝く”彼らの素晴らしさを感じました。さすが打中、ベイトウンの子。僕にもこんな時代があった(かな?)。

技術:#10-612 松村守康(T&F:211-6853/m-matz@mxqmesh.ne.jp)

学習ボランティアを探しています。 打瀬小学校 6年生卒業研究テーマ発表

今年も打瀬小学校6年生の卒業研究がはじまりました。ベイタウンニュースでは毎年、子供たちの研究テーマを紹介し、地域の大人達が卒業研究の手助けをすることをサポートできることを、とても誇りに思っています。6年生が「きりりかがやく打瀬の子」として卒業する手助けをしてあげてください。 (編集部)

人 (インタビューしたい)

マンガ家
陸上選手
スチュワーデス
獣医さん
料理教室の先生
デザイナー学校に通っている人
水泳の選手
美容師さん
歌の先生
H2 ロケットエンジンを作ったことのある人
建築家
お医者さん
おもちゃ会社に勤める人
フリーターさん
コココーラボトラーズの社員さん
将棋の有段者
作家
絵本のさし絵家さん
動物園に勤めている人 (又はいた人)
モデル経験者
リサイクルにたずさわっている人

次のことに詳しく話をしてくれる人

栄養ドリンクのつくり方
サッカー選手の生活
ロボットについて
シャーロックホームズの生活面など
コンピュータについて
ジュースはいつごろ作られたのか (昔のみものも)
野球について
恐竜について
パイロット
遺伝子組み換えについて
森林について
H2 ロケットのジェットエンジンの設計
リニアモーターカーのことを詳しく知っている人
盲導犬、警察犬など働く犬が食べているもの
物語や小説を書いたことがある人
放羊犬について
イルカの超音波について
アロマセラピーなど健康によいものを知っている人

連絡先：打瀬小学校 043-211-0321

担当：6 学年担任 平田 元子

千葉市中学校総合体育大会が始まる (打瀬中学校)

夏休み初日の7月20日(木)から、千葉市中学校総合体育大会が16種目50会場で開催されました。打瀬中学校では軟式テニス、バスケットボール、水泳、サッカー、陸上競技の5種目に出場、それぞれの会場で頬をつたわる汗と涙で青春の1ページを刻みました。

陸上競技

7月20日～21日 青葉の森陸上競技場

目標である女子総合3位以内も達成され、結果は男女総合4位、女子3位の成績でした。3年生女子100mで高橋さんが優勝、1年走り幅跳びで北川さんが3位、3年女子100mハードルで高橋さんが2位、2年800mで佐藤君が入賞、さらに、2年1500mで優勝。低学年女子100mリレー(1年北川さん、田岡さん、2年尾崎さん、唐沢さん)で優勝。県体出場が決定。高学年女子100mリレー(3年天野さん、武さん、奥村さん、高橋さん)で2位。

1、2年生は3年生の私達が最後ということで本当によく頑張ってくれました。3年はベストがでた人も思うようにいかなかった人もいましたが、最高によい大会(総体)でした。



100m ハードル、予選1位の高橋さん

バスケットボール

男子 7月20日 市立千葉高等学校
打瀬中 23:47 轟町中

結果はともかく、目一杯プレーしたので僕は満足しています。前の先輩達が引退してから、チームとしてやっていけるか心配でした。しかし、メンバーや伊藤先生、コーチの山口さんなどに支えられ、何とかここまでたどり着きました。みんな、ありがとう、そしてがんばれ！ 以上 3年部長 西川

女子 7月21日 市立千葉高等学校
打瀬中 31:53 磯辺一中

磯辺一中はとても強かったです。前半は、すごい点数のまま終わってしまいました。(8:40!?)後半もみんなががんばりましたが、結果は、負けてしまいました。悔いはないといえば嘘になりますが、最後まで部活をやり続け、このチームで引



サッカー

7月20日 磯辺二中
打瀬中 3:2 貝塚中
7月21日 若松中
打瀬中 0:1 幸二中

二回戦は試合終了直前に点を取られてしまい悔しい。1、2年生には、来年がんばって



対貝塚中 先制点のゴールを決めた打瀬

演劇発表会

7月22日 南部青少年センター
演目:「泥棒仙人」

この日は開会式から始まり、他に4校の発表がありました。発表が終わるたびに会場で見ている生徒に講評してもらいます。初めての舞台にわずか4人の役者さんでしたが、実に堂々としていて大きな舞台に見えました。これからは楽しみです。この発表会は30日まで繰り返されます。(W)

他校の演劇は、今年引退の3年生が主に役をやっていて、素晴らしい演技を見ることができました。批評会では意見を頂き参考になりました。これから先も頑張っていきたい



「泥棒仙人」を演じる打瀬中

水泳

7月23日 高洲市民プール
フリーリレー 男子2位 女子7位
メドレーリレー 男子3位 女子7位
総合成績2位 入賞者 他 多数

自分としては男子リレーで良い結果が出せてとても良かった。

3年生は県総体に出ることはできなかったけれども、皆それぞれにベストを尽くせたと思う。1、2年生も今年以上に上位入賞でき



高洲市民プールにて 400m 自由形

テニス

女子 7月20日 青葉の森
団体戦 二回戦 打瀬中2-1 若松中
第3位 三回戦 打瀬中2-0 高洲二中
四回戦 打瀬中2-1 花園中
準決勝 打瀬中0-2 松ヶ丘中

部活の中で楽しかったことや辛かったことなどたくさんありましたが、何とか最後まで部活をやり通すことができよかったです。今までやってきたことは、けっして、無駄にはならないし、とても大きな価値のあるものだと思います。この部活動で、たくさんを学び、私自身が大きく成長した気がしま



女子団体戦、アドバイスを
する三橋顧問と女子チーム

男子 7月21日 青葉の森

団体戦 打瀬中3-0 貝塚中
第3位 打瀬中3-0 都賀中
打瀬中1-2 高洲一中(準決勝)

今まで頑張ってきた3年間を総体で結果を残し、「悔いのない試合をする。」というのが目標。自分としては、市では優勝(個人)することができましたが、県の最後の試合は悔いが残りました。その悔しさを高校で晴らそうと思います。

これからのテニス部を2年生、1年生でしっかりやってほしいと思います。

3年部長 清輔

個人戦では、男子の清輔、草野組(優勝)、柴崎、松戸組(準優勝)が県大会に出場し、清輔、草野組3回戦まで進み葛飾中に惜しくも敗れました。